

東北海区沿岸水温予報(2012年)

海域	経過 (4~6月)	現況(7月上旬~ 7月下旬)	見通し (8~9月)	見通しの背景	特異現象 (漁海況)
三陸北部 (青森県太平洋沿岸; 青森水総研発表)	●沿岸定地水温はやや低めに推移した。 ●6月の太平洋観測結果 ・0m層~100m層までの最高水温はやや低め ・水塊深度はかなり低め ・張り出し位置はかなり東偏	●沿岸定地水温は平年並み ●7月の日本海観測結果 ・0m層最高水温はかなり高め ・50m、100m最高水温は平年並み ・対馬暖流の勢力は平年並み	●沿岸水温は平年並みに推移するものと思われる。	FRA-ROMS海況予測モデル、9月中旬までの予測による。	●5月に青森県太平洋沿岸でキタミズクラゲの大量発生があった。
三陸中部 (岩手県沿岸; 岩手水七発表)	4月 表面: 距岸10海里内はトドヶ崎10海里付近で「高い」のほかは「平年並み」から「やや低い」。距岸10海里以東は県北部40~50海里から県南部20~50海里にかけて「やや高い」から「極めて高い」のほかは「やや高い」。 100m深: 距岸10海里内は「平年並み」から「やや低い」。距岸10海里以東は県北部40~50海里から県南部30~50海里にかけて「高い」のほかは「平年並み」。 5月 表面: 距岸10海里内は黒崎10海里からトドヶ崎0海里が「平年並み」のほかはほぼ全域「やや高い」。距岸10海里以東は「やや高い」。 100m深: 距岸10海里内は全域「平年並み」。距岸10海里以東は県北部沖合30~50海里から県中部沖合20~30海里が「やや高い」のほかは「平年並み」か「やや低い」。 6月 表面水温: 距岸10海里内は県南部が「高い」のほかは県北部、県中部で「やや高い」。距岸10海里以東は「やや高い」。 100m深: 距岸10海里内は「平年並み」。距岸10海里以東は県北部沖合30~50海里から県中部10~30海里が「やや高い」のほかは「平年並み」か「やや低い」となっている。	7月 表面: 距岸10海里内は県中部から県南部にかけて「高い」のほかは「やや高い」。 距岸10海里以東は県北部と県南部が「やや高い」のほかは「平年並み」。 100m深: 距岸10海里内はトドヶ崎沖が「低い」のほかは「平年並み」。距岸10海里以東は県北部が「やや高い」、県中部10~50海里が「やや低い」のほかは「平年並み」。	県北部東経143°以東が「高い」のほかは「平年並み」。	統計的予測モデルによる。	特になし。
三陸南部 (宮城県沿岸; 宮城水七発表)	(4月上旬) 『仙台湾の表層は6~7℃台で平年より1~2℃低め、沖合から暖水が波及し、雄勝沖ライン(38° 30' N)では、142° E付近、亘理沖ライン(38° N)では141° 40' E付近で顕著な潮境が形成されていた。』 【表面水温】 表面水温は5~13℃であった。仙台湾は6~7℃台で、平年よりも1~2℃低めであった。沖合からの暖水の波及は先月よりも強くなり、雄勝沖ライン(38° 30' N)では、142° E付近、亘理沖ライン(38° N)では141° 40' E付近で親潮系冷水と黒潮系暖水の潮境が形成され、これより沿岸では平年よりも低く、沖合側では平年よりも高くなっていった。 【100m深水温】 100m深水温については、6~9℃台であった。表面水温同様に沖合からの暖水波及の影響がみられ、平年差は表面水温と同様の傾向となっていた。 (5月上旬) 『本県沿岸の表層水温は前月よりも顕著に昇温し、平年よりも1~4℃高めであった。100m深水温は141° 50' E以西で0~2℃低め、141° 50' E以東の海域では0~2℃高めであった。』 【表面水温】 表面水温は12~14℃であった。特に142° E以西の海域で顕著に昇温し、仙台湾では先月と比較して7℃程度高くなっていった。平年と比較すると、142° E以西の海域では平年より1~2℃高め、142° E以東の海域では3~4℃高めであった。 【100m深水温】 100m深水温については、5~9℃台であった。平年と比較すると141° 30' E~141° 40' E付近の海域では0~2℃低め、141° 50' E以東の海域では0~2℃高めであった。 (6月上旬) 『仙台湾では表面水温が平年よりも高めであった。141° 30' E以東では南下した冷水の影響を受け、表面及び100m深とも0℃から2℃低めであった。』 【表面水温】 表面水温は13~19℃であった。141° 30' E以西の浅海域は、先月よりも3~6℃昇温し、平年よりも1~2℃高めであった。一方、141° 30' E以東の海域では冷水の南下により先月より降温して、平年より0~2℃低めであった。	(7月上旬) 『表面水温、100m深とも平年よりも0~2℃高めとなっている。』 【表面水温】 宮城県沿岸の表面水温は18~21℃となっている。平年と比較すると仙台湾は概ね平年並み、141° 30' E以東の海域では、先月よりも3~6℃昇温し、平年よりも2℃高めとなっている。 100m深水温については、調査点全域で8~9℃台となっている。平年と比較すると、0~2℃高めとなっている。	8月は39° Nライン(気仙沼沖)及び38° 30' Nライン(雄勝沖)の142° E以西は平年並みで推移する。142° E~143° 10' Eはやや低めで推移する。 9月は、39° Nライン、38° 30' Nライン、38° Nラインのいずれも142° E以西は平年並みで推移する。142° E~143° 10' Eはやや低めで推移する。	水温経験的予測システムの主成分分析により予測した。	特になし

	<p>【100m 深水温】</p> <p>100m深水温は4～8℃台であった。冷水の南下の影響が表面よりも強く現れており、38° 30' Nラインの142° E～142° 10' E付近では平年並みであったが、142° E以西では平年より1℃低め、142° 10' E以东では平年より1～3℃低めであった。</p>				
常磐北部 (福島県沿岸; 福島水試 発表)	<p>定線全体でみると、4月は表層、100m深とも「平年並み」</p> <p>5月の表層は「やや高め」、100m深は「平年並み」であった。</p> <p>6月の表層は「やや高め」、100m深は「平年並み」であった。</p> <p>定線ごとにみると、表層のうち、塩屋埼定線(県南海域)は「やや低め」～「やや高め」、富岡(県中)は「やや低め」～「高め」、鶴ノ尾埼(県北)は「平年並み」～「やや高め」で推移した。</p> <p>100m深では、5月の富岡が「やや高め」となった以外は「平年並み」であった。</p>	<p>定線全体でみると、表層は「平年並み」、100m深は「やや低め」であった。</p> <p>鶴ノ尾埼定線(県北海域)のうち一部の定点(141-24E)で、50-100m深に親潮系冷水の波及(5℃台)がみられ、鶴ノ尾埼定線の100m深は「低め」となった。</p> <p>なお、鶴ノ尾埼の表層は「やや高め」であった。</p> <p>塩屋埼、富岡定線(県南、県中海域)とも表層は「平年並み」、100m深では「やや低め」であった。</p>	「平年並み～やや高め」で推移する	<p>気象庁の1カ月予報では、親潮の面積は「平年並みか平年より小さくなる見込み」であり、房総半島における黒潮は「次第に接岸して流れる見込み」となっている。</p> <p>また、7月上旬に海洋観測で得た水温を用いて自己回帰分析を実施した結果、本県沖は8～9月とも「平年並み」となった。</p>	特になし
常磐南部 ～鹿島灘 (茨城県沿岸; 茨城水試 発表)	<p>4月: 上旬は平年と比べると北部海域の沿岸域と沖合域下層で「やや低め」、犬吠埼沿岸で「平年並～やや低め」、その他は概ね「平年並～高め」であった。</p> <p>5月: 上旬は平年と比べると県内全域で沿岸・沖合の表層および極沿岸では「高め」、沿岸・沖合の下層では「低め」であった。4月下旬～5月上旬に県内全域の表層で暖水波及があり、表層では著しく昇温(1～5℃)した。</p> <p>6月: 上旬は平年と比べると沿岸・沖合の表層および極沿岸では「高め」基調、大洗・鹿島沖合(東経141° 30' 以东)の下層(100m深)で「高め」、その他海域の下層では「低め」基調であった。5月下旬～6月上旬に鹿島・大洗沖合で暖水波及があり、下層では前月よりも大幅に昇温(3～4℃)した。</p>	<p>7月: 上旬は鹿島灘～常磐南部沖合での黒潮流路が北偏傾向となった影響により、南部沖合域を中心に「高め～きわめて高め」、南部沿岸域で「やや高め」となったが、北部沿岸域では「やや低め～平年並み」であった。</p>	「平年並み～高め」で推移する。	<p>①7月上旬に海洋観測で取得した水温値を用いて自己回帰分析を実施した結果、ほぼ全点でクラスタ分けされた全ての海域区分で8・9月とも平年と比べた。正偏差となった。</p> <p>②7月上旬時点での気象庁の予報によれば、親潮の南限緯度は後退するとともに面積も平年並み～小降で最多。仔魚はさめで推移するとみられ、本県沿岸まで親潮が直接影響しないことが予測される。</p> <p>③1～5月に鹿島～銚子沖で北部まき網がマイワシを約3万トン漁獲した。同期のマイワシ漁獲量としては過去10年で最も多かっ</p> <p>④昨年11月以降、ヤリイカの好漁が続いた。1～5月のヤリイカ漁獲量は約1,300トンで、過去20年で最も多かった。漁期も例年と比べ長く、底曳網漁の禁漁直前(6月末)まで水揚げが続いた。</p>	<p>①4月海洋観測におけるノルパツク鉛直曳きにおける、ほぼ全点でクラスタ分けされた全ての海域区分で大量に採集された。</p> <p>②マイワシの卵・仔魚の出現量が多かった。卵は5月が出現ピークとなり1995年以降で最多。仔魚は4月が出現ピークとなり1995年以降で3番目に多か</p>

各階級の水温平年偏差の範囲

階級区分(出現率)	三陸北部	三陸中部		三陸南部	常磐北部	常磐南部～鹿島灘
		距岸10海里内	距岸10～70海里			
極めて高い(2.5%)	+2.4℃～	+4.0℃～	+6.0℃～	+2.4℃～	+4.0℃～	+4.0℃～
高い(7.5%)	+1.6～+2.3℃	+2.5～+3.9℃	4.0～+5.9℃	+1.6～+2.3℃	+2.5～+3.9℃	+2.5～+3.9℃
やや高い(20%)	+0.7～+1.5℃	+1.0～+2.4℃	1.5～+3.9℃	+0.7～+1.5℃	+1.0～+2.4℃	+1.0～+2.4℃
平年並み(40%)	+0.6～-0.6℃	+0.9～-0.9℃	1.4～-1.4℃	+0.6～-0.6℃	+0.9～-0.9℃	+0.9～-0.9℃
やや低い(20%)	-0.7～-1.5℃	-1.0～-2.4℃	1.5～-3.9℃	-0.7～-1.5℃	-1.0～-2.4℃	-1.0～-2.4℃
低い(7.5%)	-1.6～-2.3℃	-2.5～-3.9℃	4.0～-5.9℃	-1.6～-2.3℃	-2.5～-3.9℃	-2.5～-3.9℃
極めて低い(2.5%)	-2.4℃～	-4.0℃～	-6.0℃～	-2.4℃～	-4.0℃～	-4.0℃～